

“良い頭”を作るのは教育の仕事

脳障害児は、脳の障害を医学的に治療することがまず第一です。外科的に脳の悪い部分を切り取るのが良い場合は、そうすることです。ドーマン博士は、そうした方法によって機能が回復したケースを報告しています。

前述した通り脳は140億個もの神経細胞でできていて、よほど頭を使う人でも数分の一しか使っていないだろうと言われています。悪い部分を切除しても、それをカバーすることができるもののようです。

また、内科的な医療も効果を上げることができます。

今はその方面の薬も発達していて、内服薬により、脳障害が快方に向かっている例が少なくありません。

しかし、そういう医療は、脳の正常でない部分を正常な部分がカバーするのが目的であって、それだけでいわゆる“良い頭”の持ち主になれる訳ではありません。“良い頭”を作るのは教育の仕事であって、

それは“医療”を越えた仕事です。

ところが、“良い頭”を作ることは、“頭を使う”ことが第一で、その“頭を使う”最高・最良の方法が『石井・ドーマン方式読み方ゲーム』つまり“漢字遊び”です。

これについては、第一章で、愛子ちゃんを通して具体的に紹介した通りです。

すでに新聞にも報道されましたので、ご存知の方も多いと思いますが、競馬のレース中に落馬したまま意識を失っている福永洋一騎手の治療のため、55年7月、ドーマン博士が来日されました。

多忙なスケジュールの一部をさいて頂き、ドーマン博士と、電話でお話をする機会を得ました。

一時間半にわたって福永騎手を診察した結果、「再起は非常に有望」と明るい声で語っておりました。

福永騎手の一日も早い回復を、心より祈ってやみません。